
当院における透析見合わせの経験～「透析の開始と継続に関する意思決定プロセスについての提言」(「提言」)の活用

医療法人衆和会 長崎腎病院

○白水利沙 橋本沙織 中村麻美 白井美千代 船越 哲

【背景・目的】

医学的に透析継続可能な状態であっても、疾患による苦痛や透析治療による全人的苦痛から逃れるため、本人と家族の意思を尊重し透析の見合わせについての検討を、我々は2008年から開始している。2020年には透析医学会から「提言」が発表され、以降はこれに則って透析継続の是非について検討を続けている。

【対象・方法】

本人と家族の意思により透析見合わせを選択した患者について、意思決定プロセスを「提言」の中の「腎代替療法が必要に至った時点での意思決定プロセス」に可能な限り忠実に検討した。

【結果】

2008年～2023年の15年間で透析を見合わせた症例が14名(透析の中止)、非導入を選択した症例が9名であった。平均年齢は80歳、平均透析歴4年7カ月、透析見合わせの理由は悪性腫瘍が5名、壊疽による痛みから逃れたいが2名、認知症により本人、家族で決めたのが14名、その他の理由で2名であった。家族構成は独居6名・複数の家族と同居が17名であり、倫理委員会は23名中20名開催した。

【考察】

意思決定プロセスを「提言」に沿って検討することで、本人・家族の意思を尊重できたと考える。